



# Chat and drinks

12/4 木  
19:00 - 20:30

会場：ラクセーヌ専門店1階  
北出入口横  
参加者：14名

2024年度からはじめての市民ワークショップ「RAKUSAI Pub. Lab. (洛西パブラボ)」の番外編企画として、テーマごとにゲストを招いて話を聞いたり、参加者同士で語りあったりする場「Chat and drinks」を開催しました。このレポートでは、当日のゲストトークを中心に当日の様子を紹介します。

## 第2回 トークテーマ 地域でうまれるスモールビジネス



トークゲスト  
北池 智一郎 さん

株式会社タウンキッチン代表取締役  
地域の人の創業をハード・ソフト両面から支援するプロジェクトに携わる。

「私は今年で創業支援とまちづくりを軸に活動を始めて16年目になります。地域には、本当に細かく多様なニーズがたくさんあります。ただ、それを行政だけで全部拾うのは正直難しい。だからこそ、市民一人ひとりが「ちょっとやってみる」ことができる環境が必要だと思っています。」

### 1. 創業支援は「いきなり独立しない」ことから始める

私たちが取り組んでいる創業支援は、大きく4つの柱があります。

まず1つ目は、創業セミナーや相談の場です。「何かやりたいけど、何をやりたいかも分からない」そんな段階の人が結構多いんです。そういう人たちが集まって、アイデアを出したり、試験的にやってみたりする場をつくっています。2つ目が、シェアキッチンやシェアスペースの開設です。これはかなり重要な取り組みだと思っています。

3つ目は、空き家や空き物件の活用です。事業がある程度育った人には、空き家を改修して店舗にする、といった提案もしています。地域の中に点々と、その人らしいお店やサービスが広がっていきます。

4つ目が、メディアでの発信です。「この人、もともと普通の会社員だったんですよ」、「子育てしながら、こんなこと始めたんですよ」というストーリーを伝えることで、次の「やってみたい人」が生まれていく。この循環をすごく大事にしています。

創業支援4つの柱

- 1. 創業セミナー、相談の場
- 2. シェアキッチン・シェアスペースの開設
- 3. 空き家・空き物件の活用
- 4. メディア発信

## 2. シェアキッチン「夢を現実に近づける練習場」

シェアキッチンの事業は私たちが携わっている中でも、特に手応えを感じている取り組みです。飲食店をやりたいという方は本当に多いのですが、いきなりお店を持つのはハードルが高すぎる。物件を借りて、内装を入れて、数千万円単位のお金を借りることになるケースも珍しくありません。でも、「料理が好き」、「昔、飲食店で働いていた」、「家族や友達に出したら評判がよかった」、そういう“芽”は、地域にたくさんあります。

シェアキッチンでは、営業許可をきちんと取った厨房をみんなで使います。週1日だけ、月に数回だけという使い方もできます。例えば、子育て中の主婦の方が、日曜日だけランチを出してみる。最初は10人来れば御の字、という感じなのですが、だんだん常連さんがついてくる。そうすると、「このメニューならいけるな」、「この価格帯がちょうどいいな」という感覚が、実体験として分かってきます。実際、私たちのシェアキッチンを卒業して、自分のお店を持った方は30名ほどいます。お客さんがついた状態で独立するので、本人もリスクが低いですし、銀行もお金を貸しやすい。それに、家族の理解が得られるというのも大きいです。最初は「大丈夫なの？」と言われていたのが、売上が数字で見えると、「じゃあ、やってみたらいいんじゃない？」に変わる。これは本当によくある話です。



## 3. 郊外で起きている変化 — 暮らしと仕事をつなぎ直す

実際に利用している人たちは30~40代が多く、最近では50代も増えてきていて、その多くは子育て世代です。通勤中心の働き方に違和感を持ち、「家族の近くで、自分のペースで働きたい」と考える人たちです。主婦の方が、子育ての合間に飲食業や教室を始めたり、身近な困りごと（認知症、アレルギーなど）をきっかけに、ちょっとしたお節介からスタートしてNPOや小さなビジネスを立ち上げたりした事例もあります。大きく儲けることよりも、「無理なく続けられる規模で、地域に必要とされる仕事をする」。そうした働き方が、郊外では確実に増えてきています。ニュータウンも同じではないでしょうか？こうした創業は、最初から「ビジネスをやろう」と思って始まってはけません。空き家や空き店舗を使って、地域に顔の見えるお店やサービスが増えていく。それが結果的に、自分の住んでいる町への誇りや愛着につながっていくと思います。私たちは、大企業を育てたいわけではなく、家族を養って、無理なく続けられる規模の仕事が、地域の中にたくさん生まれること。その積み重ねが、これからの郊外のまちを支えていくんじゃないかと考えています。

### トークのポイント

- ・創業は「大きく始めない」ことが大事
- ・シェアキッチンは夢を叶えるための「練習場」
- ・身近な困りごとが、地域ビジネスの種になる
- ・空き家・遊休資産は「問題」ではなく「資源」になり得る
- ・郊外では「無理なく続けられる小さな経済」がまちを支える



### アンケートより（一部抜粋）

自分にも、この街にも可能性があることを認識できワクワクした／ニュータウンにどんな生業があるのか知りたい／小さな経済圏でも商いが成立することがわかった／未利用施設の活用などについて話したい